



まちづくり情報特派員特集

テーマ「民生委員のしごとに密着！」

民生委員・児童委員のおしごとをもっと知りたい！ということで、就任されて2期目を迎えられた永田節子さん(宮台)のおしごとに密着しました！
宮台は永田さんを含め2名の民生委員・児童委員が344世帯(平成28年4月現在)を担当しています。
今回は、民生委員・児童委員の大切な活動の一つである高齢者の方の見守りに同行させていただきました。



一人ひとりのお宅を訪問します

今回、永田さんが訪問された方々は、年齢を感じさせないお元気な方ばかりでしたが、お体はなかなか思うようにならないこともある様でした。

永田さんは、何気ない世間話の中で、今の健康状態や家族の状況、最近の過ごし方、困っていることなどをさりげなく聞かれています。

同じ地域で生活している者同士、ちょっとした言葉のやり取りでわかることが多く、共通の話題で思わず話が盛り上がるなど、訪問はとても楽しそうな雰囲気でした。

近年、困っていることを自ら発信することが身近な人が気づいてあげることが難しくなっています。

民生委員・児童委員が継続的に訪問し、会話などを通して信頼関係を深めることで、悩みに気づく機会が増える



特集 民生委員・児童委員

見守りあい
支えあい
つなぎあい

愛

のある町

「みんせいいん・じどういいん」を知っていますか？
聞いたことはあるけれど、何をしている人だろう？
今月は、わが町の民生委員・児童委員をご紹介します。



福祉課 ☎84-0316



お庭の手入れが大好きとおしゃる坪井さん

訪問を終え、ご自宅に戻られた永田さんに、どうして民生委員・児童委員になられたのか伺いました。
「一昨年亡くなった同居の義母に「協力するからやってみたら」と勧められ、民生委員になりました」と永田さん。
「民生委員・児童委員になって個々の対応で悩むことはありますが、それほど困るということはありません。相手が不安にならないような話し方、なるべく明るくなるような話し方を心がけています」
そう柔らかい笑顔で話してくださいました。
常に前向きな永田さん。このような民生委員の皆さんの活躍に、町の元気は支えられているのだと感じました。

【取材後記】

民生委員・児童委員。言いかえれば地域の見守り隊だと思います。ますます進む高齢化の中で、人々が充実した人生を送ることができるよう、その気持ちを汲み取り、行政や専門機関との橋渡し役となる大切な仕事だと思いました。

人は誰でも年を取り、若い時とは違って思うようにならないことも増えてきます。民生委員・児童委員と共に私たち一人ひとりもその気持ちを汲んで、手をさし出す行動が必要だと感じました。

まちづくり情報特派員 石塚 敦



未だ現役でお花の先生をされている98歳の松下さん

地域に相談できる人や話を聞いてくれる人がいることで、安心感が高まります。
開成町は人口が増え、若い世代の割合が高い一方で、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯も増えています。コンパクトな町ならではの、きめ細かな支援やサービス、強い地域でのつながりが開成町の魅力の一つです。

民生委員・児童委員って こんな人！

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱され、地域福祉の向上のために活動するボランティアで、児童委員を兼ねています。
児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもに関する相談や支援を行います。
開成町では、34名の民生委員・児童委員が活動しており、このうち2名は児童福祉を専門に担当する主任児童委員です。
核家族化の進展や地域でのつながりの希薄化により、悩みや心配ごとを抱えている人が孤立し、必要な支援を受けられないケースがあります。
民生委員・児童委員は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるように、高齢者や障がいのある方、子育てや介護の悩みを抱えている人などの身近な相談相手となり、支援が必要な人と行政、地域包括支援センターや児童相談所などの専門機関をつなぐパイプ役を務めます。

